

令和5年度
発生予察情報

発生予報第13号（概要版）

令和5年12月18日発行
宮城県病害虫防除所
(TEL:022-275-8982)

作物名	病害虫名	発生予報	備考
いちご	うどんこ病	発生量: 平年並	
	ハダニ類	発生量: やや少	
	コナジラミ類	発生量: 少	

より詳しい内容は、下記ホームページでご確認ください。

宮城県病害虫防除所 <https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/byogai/>

次回、発生予報第14号の発行日は1月15日(月)の予定です。

★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』で

発生予察情報の発表をお知らせしています★



宮城県病害虫防除所 メルマガ

トップページ

登録フォーム

ー1月中旬までの発生予報と防除のポイントー

巡回調査:12月11~12日

天候予報:仙台管区气象台 12月14日発表

1 発生予報

病害虫名	発生時期	発生量
うどんこ病	ー	平年並

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、発生は確認されなかった(平年並)。(/±)
- (2)20℃前後が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温はほぼ平年並と予報されている。(/±)

病害虫名	発生時期	発生量
ハダニ類	ー	やや少

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、寄生株率はやや低く、発生地点率は低かった。(/ー)
- (2)25~30℃で乾燥が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温及び降水量はともにほぼ平年並と予報されている。(/±)

病害虫名	発生時期	発生量
コナジラミ類	ー	少

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、寄生株率及び発生地点率は平年より低かった。(/ー)
- (2)23~28℃が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温はほぼ平年並と予報されている。(/±)

※ 予報の根拠 (発生時期 / 発生量)

発生時期・・・(+):遅くなる要因 (±):平年並になる要因 (ー):早くなる要因 (空欄):該当せず
発生量・・・(+):多くなる要因 (±):平年並になる要因 (ー):少くなる要因 (空欄):該当せず

2 防除のポイント

(1)共通事項

- ・病害虫の薬剤抵抗性の発達を防止するため、RACコードの異なる薬剤を組み合わせ、計画的なローテーション散布を行う。
- ・薬剤散布を行う場合は、訪花昆虫や天敵への影響日数に注意する。
- ・いちごの農薬使用回数は、親株からランナーを切り離れた時点から収穫終了までをカウントする。

・薬剤は『宮城県農作物病害虫・雑草防除指針』を参考に選定する。

<https://www.nouyaku-sys.com/nyoyaku/user/top/miyagi>

(2)うどんこ病・灰色かび病

- ・施設を締め切ったまましていると湿度が高くなりやすいので、換気等により湿度を下げる。また、植物体に濡れが生じると病原菌の植物体への侵入に好適となるため、日の出後の温度変化を緩やかにし、植物体の濡れを抑える。
- ・老化した下葉の摘除や農薬の予防防除を実施し、発病予防に努める。

(3)ハダニ類

- ・多発すると防除が困難になるため、ほ場をよく見回り発生初期から防除を徹底する。
- ・天敵の定着を促すため、放飼後 1 週間～10 日間は農薬散布や葉かきを控える。
- ・天敵放飼後にハダニ類が目立った場合は、発生しているスポットへの気門封鎖剤の散布や、天敵に影響の少ない殺ダニ剤の散布を行う。葉裏にもよくかかるよう丁寧に散布する。

(4)コナジラミ類

- ・主に葉裏にいるので、薬剤散布は葉の表だけでなく植物体全体にかかるように散布する。
- ・多発すると排泄物(甘露)によるすす病を発生させるので、ほ場をよく見回り発生初期から防除を徹底する。
- ・本ぽでラノーテープを用いる場合は、目安として、3ベッド(畝)毎に展張することで抑制効果が発揮される。
- ・ラノーテープは雌成虫が接触しないと効果が発揮されないため、作物の直上部に株から離れすぎないように草丈に合わせて展張する。使用基準は、10a につき 10～50 m²である(テープ 200m～1000mに相当)。

《お問い合わせ先》

宮城県病害虫防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429

E-mail: byogai@pref.miyagi.lg.jp

★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』で
発生予察情報の発表をお知らせしています★



宮城県病害虫防除所
トップページ



メルマガ
登録フォーム